

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | |
|-------|---|----------------------|----------|-----------------------|
| 施策展開 | 5-(3)-イ | Society5.0に対応する教育の推進 | 施策 | ②科学・理数教育の充実 |
| | | | 施策の小項目名 | ○将来国際的に活躍しうる科学技術人材の育成 |
| 主な取組 | 子ども達が科学技術に触れる機会の創出 | | 対応する成果指標 | 理系大学への進学率 |
| 施策の方向 | ・将来、国際的に活躍し得る科学技術人材の育成に資するスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の支援に高等教育機関との連携により推進するほか、民間事業者との連携により科学作品展の開催に取り組みます。 | | | |

1 取組の概要 (Plan)

| 主な取組(アクティビティ) | 実施主体 | 年度別計画 | | |
|--|-------------|---|----------|----------|
| | | 活動指標(アウトプット) | | |
| | | R4 | R5 | R6 |
| 子どもたちの科学技術に対する興味、関心を高め、将来国際的に科学技術、産業振興を担う人材の育成に繋げるため、OIST、琉球大学、沖縄高専等と連携し、科学教室、科学教育プログラム等を実施する。 | 県,大学等,県内企業等 | 大学、研究機関、企業、児童館等との連携による科学教育実施の支援、キャリア形成の推進 | | |
| | | 出前講座等実施回数(累計) | | |
| | | 20回 | 20回(40回) | 20回(60回) |
| 担当部課【連絡先】 | 企画部科学技術振興課 | 【 098-866-2560 】 | 関連URL | — |

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

| (1) 取組の進捗状況 | | | | (単位：千円) | | |
|---|---------------|-------------|---------------|---|---------------|--------|
| 予算事業名 | 子ども科学技術人材育成事業 | | | 予算事業名 | 子ども科学技術人材育成事業 | |
| 主な財源 | 実施方法 | R3年度 決算額 | R4年度 決算見込額 | R5年度 | | |
| 一括交付金 (ソフト) | 委託 | 35,660 | 39,679 | 主な財源 | 実施方法 | 当初予算額 |
| | | | | 一括交付金 (ソフト) | 委託 | 42,000 |
| 令和4年度活動内容 | | | | 令和5年度活動計画 | | |
| 大学、研究機関、企業等21者と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験教室等を64回実施した。 | | | | 大学、研究機関、企業等と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験プログラム等を20回以上実施する。 | | |

| 活動指標名 | 出前講座等実施回数 (累計) | | R4年度 | | | 進捗状況 | 活動概要 |
|-------|----------------|------|---------|---------|-------------|------|---|
| | R2年度 | R3年度 | 実績値 (A) | 目標値 (B) | 達成割合 A/B | | |
| 実績値 | 60回 | 74回 | 64回 | 20回 | 100.0% | 順調 | 大学、研究機関、企業等21者と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験教室等を64回実施した。 |

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

活動指標となっている出前講座等実施回数の実績は64回となっており、目標値を大幅に上回っていることから順調と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

| 令和4年度の取組改善案 | 反映状況 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術に対する興味・関心、意欲・理解度が様々な子ども達が科学に触れられるよう、成長段階に応じた科学教育プログラムを実施する。 ・ 離島地域の子ども達が科学技術に触れる機会を創出するため、科学出前講座等の離島開催を強化する。 ・ 各自治体や大学、企業等が実施する科学イベントと連携した科学技術に触れる機会を創出する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学教育プログラムについては、難易度別、対象年齢別に設定することで成長段階に応じたものとなるよう工夫して実施した。 ・ 科学体験出前プログラムについては、離島での開催を10回以上実施した。 ・ 各自治体や大学、企業等が実施する科学イベントの情報を集約し、周知した。 |

様式1 (主な取組)

| 3 取組の検証 (Check) | | 4 取組の改善案 (Action) | |
|-----------------|--|-------------------------|---|
| 類型 | 内容 | 類型 | 内容 |
| ⑦ その他(改善余地の検証等) | 科学技術にあまり興味・関心がない子ども達に対して、気軽に参加できる面白さや楽しさを喚起する取組の強化が必要。 | ④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化) | これまでの連携機関だけでなく地域貢献活動を行う企業との連携も深め、科学工作やプログラミング体験等、科学技術に触れられるブースやショーなどを交えた親子で気軽に参加できる科学イベントを強化する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |

様式1 (主な取組)

「主な取組」検証票

| | | | | |
|-------|---|----------------------|----------|-----------------------|
| 施策展開 | 5-(3)-イ | Society5.0に対応する教育の推進 | 施策 | ②科学・理数教育の充実 |
| | | | 施策の小項目名 | ○将来国際的に活躍しうる科学技術人材の育成 |
| 主な取組 | 科学技術の振興に係る関係機関との連携 | | 対応する成果指標 | 理系大学への進学率 |
| 施策の方向 | ・将来、国際的に活躍し得る科学技術人材の育成に資するスーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校の支援に高等教育機関との連携により推進するほか、民間事業者との連携により科学作品展の開催に取り組みます。 | | | |

1 取組の概要 (Plan)

| 主な取組(アクティビティ) | 実施主体 | 年度別計画 | | |
|--|-------------|-----------------------------|---------|---------|
| | | 活動指標(アウトプット) | | |
| | | R4 | R5 | R6 |
| 子どもたちの科学技術に対する興味、関心を高め、将来国際的に科学技術、産業振興を担う人材の育成に繋げるため、OIST、琉球大学、沖縄高専等と連携し、科学教室、科学教育プログラム等を実施する。 | 県,大学等,県内企業等 | 大学、研究機関、企業等との連携による科学イベントの開催 | | |
| | | 連携機関・企業数(累計) | | |
| | | 5者 | 7者(12者) | 9者(21者) |
| 担当部課【連絡先】 | 企画部科学技術振興課 | 【 098-866-2560 】 | 関連URL | — |

様式1 (主な取組)

2 取組の状況 (Do)

| (1) 取組の進捗状況 | | | | (単位：千円) | | |
|---|---------------|-------------|---------------|---|---------------|--------|
| 予算事業名 | 子ども科学技術人材育成事業 | | | 予算事業名 | 子ども科学技術人材育成事業 | |
| 主な財源 | 実施方法 | R3年度 決算額 | R4年度 決算見込額 | R5年度 | | |
| 一括交付金 (ソフト) | 委託 | 35,660 | 39,679 | 主な財源 | 実施方法 | 当初予算額 |
| | | | | 一括交付金 (ソフト) | 委託 | 42,000 |
| 令和4年度活動内容 | | | | 令和5年度活動計画 | | |
| 大学、研究機関、企業等21者と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験教室等を64回実施した。 | | | | 大学、研究機関、企業等と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験プログラム等を20回以上実施する。 | | |

| 活動指標名 | 連携機関・企業数 (累計) | | R4年度 | | | 進捗状況 | 活動概要 |
|-------|---------------|------|---------|---------|-------------|------|---|
| | R2年度 | R3年度 | 実績値 (A) | 目標値 (B) | 達成割合 A/B | | |
| 実績値 | -者 | -者 | 21者 | 5者 | 100.0% | 順調 | 大学、研究機関、企業等21者と連携し、子どもたちの成長段階に応じた科学体験教室等を64回実施した。 |

進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果

活動指標となっている連携機関・企業数の実績は21者となっており、目標値を大幅に上回っていることから順調と判定した。

(2) これまでの改善案の反映状況

| 令和4年度の取組改善案 | 反映状況 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学技術に対する興味・関心、意欲・理解度が様々な子ども達が科学に触れられるよう、成長段階に応じた科学教育プログラムを実施する。 ・ 離島地域の子ども達が科学技術に触れる機会を創出するため、科学出前講座等の離島開催を強化する。 ・ 各自治体や大学、企業等が実施する科学イベントと連携した科学技術に触れる機会を創出する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 科学教育プログラムについては、難易度別、対象年齢別に設定することで成長段階に応じたものとなるよう工夫して実施した。 ・ 科学体験出前プログラムについては、離島での開催を10回以上実施した。 ・ 各自治体や大学、企業等が実施する科学イベントの情報を集約し、周知した。 |

様式1 (主な取組)

| 3 取組の検証 (Check) | | 4 取組の改善案 (Action) | |
|-----------------|--|-------------------------|---|
| 類型 | 内容 | 類型 | 内容 |
| ⑦ その他(改善余地の検証等) | 科学技術にあまり興味・関心がない子ども達に対して、気軽に参加できる面白さや楽しさを喚起する取組の強化が必要。 | ④ 創意工夫による取組の改善(合理化・効率化) | これまでの連携機関だけでなく地域貢献活動を行う企業との連携も深め、科学工作やプログラミング体験等、科学技術に触れられるブースやショーなどを交えた親子で気軽に参加できる科学イベントを強化する。 |
| | | | |
| | | | |
| | | | |